

入選 静岡県 岡野 愛実 様 (高校生 女性)

私は、今まで年金についての知識や関心が全くなく、なぜこのような制度が日本にあるのか、考えたことがなかった。しかし、私は中学三年生になってから、年金に興味を持つようになった。それは、父の死がきっかけであった。

私の父は、心臓の病で急に亡くなってしまった。私はまだ十五歳。高校受験を控えた大切な時期に、大切な存在を失ってしまった。私と母は途方に暮れた。父が亡くなったことにより、記入する書類が増えた。そこには、遺族年金に関する書類があった。私はそこで初めて、消費税や住民税等の税金以外に、年金があることを知った。遺族年金とは、一家の働き手が亡くなったとき、子のある配偶者、または子が、国民年金から「遺族基礎年金」を受け取ることができる仕組みである。これを利用して今、高校の学費を払い、通学することができている。そして、私は進路を大学に進学することに決めた。それは、この遺族年金があったおかげだと思っている。

そして先日、日本年金機構の方が、講義をしに来てくださった。その方は、過去に自身の難病によって、長年悩まされてきたが、障害年金という制度があったおかげで、病に負けず克服し、また通常の生活に戻ることができたそうだ。大切な人の死や、自身の重い病に挫けそうになり、生活が十分に送れなくなってしまう。そのようなときに、私たちを助けてくれる年金という存在を、改めてありがたく感じた。

今まで私は、年金について深く考えたことがなく、一部の人がしか利用できないのではという、マイナスなイメージしかなかった。しかし、年金に生活を助けてもらってからは、年金に感謝をしている。私たちが、日頃から納めている税金や年金が、私たちの生活を巡り巡って、より便利に、豊かにしてくれていることを実感したからだ。

世の中には、税金や年金の滞納によって、将来自分の身に何かあったときに、保護が受けられない人もいます。そのようになってしまうと、生活の仕方やその人の今後の人生に、大きな影響がでてしまう。私はまだ十八歳で、税金や年金にあまり関わってこなかった。しかし、日本年金機構の方の講義や、自分の体験から、年金とは人を苦しみから救い、幸せにしてくれるものだ、と今感じている。これから、納税者になる私たちが、年金につい

ての正しい知識を持ち、否定的な意見を持つ人が、少しでも減るように年金の重要性を伝えていきたいと思った。